

介護保険事業

【質疑】高齢者権利擁護に関する相談件数が令和5年度は830件であったのに対し、令和6年度は1400件と大幅に増加した要因は。

【答弁】本市における独り暮らしもしくは二人暮らしの高齢者は増加傾向にあり、身の回りの管理において支援を必要とすることが多く、地域包括支援センターで取り扱う権利擁護に関する相談を押し上げている。また、権利擁護に関する相談は、解決までに時間を要するため、何度も相談を受ける必要がある。本市の地域包括支援センターにおいては社会福祉士を増員し、訪問相談の回数も増え、高齢者の見守りをさらにきめ細やかにできるようになった。

【質疑】高齢者権利擁護に関する相談内容において、成年後見について特に増

加している。制度利用までつながった支援の件数と制度利用までつながらなかった事案の最大の理由は。

【答弁】成年後見制度には親族による申し立てや、判断能力があるうちに行う任意後見契約などもあるが、市で把握できているのは、行政が親族の代わりに申し立てを行う市長申し立てである。市長申し立てについては平成22年度から令和6年度までの期間で26件の相談があり、そのうち18件については後見人が選任され、残りの8件については、後見人の選任まで進まずに中断・取り下げとなった。

また申し立てとならなかった理由としては、親族から取り下げの申し出や申し立ての準備途中に本人が亡くなるがあった。

【質疑】『令和6年度衛生を活用した水道管路の漏水調査業務』の業務内容の詳細は。

【答弁】本調査は令和6年度に宮城県内11事業体および福島県1事業体を含む12事業体において共同で取り組みを進めてきた。調査方法は人工衛星から得た漏水可能性箇所のデータを水道管路図に重ね分析し、半径100メートルの範囲内に漏水箇所を絞り込む。本市水道給水区域内を調査範囲とした結果、半径100メートルの範囲で87エリアにおいて漏水の可能性があると示された。各工事への運用は、令和6年度と令和7年度の路面音聴調査で確認された漏水箇所の分析を行い、今後計画している老朽管更新工事の優先順位の選定する際の資料として使用する予定である。

水道事業

市政に 対する 一般質問

〓〓8名の議員が質問〓〓

9月定例会の一般質問は、9月8日・9日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

※二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

大内 卓也 大学院大学設置について

佐久間儀郎 クマの出没と鳥獣保護管理法の改正について

佐藤 龍彦 エアコンの購入費用の補助について

角張 大治 国のコメ政策転換と白石市の工業団地計画について

大森 貴之 防災減災対策の拡充について

四竈 英夫 スパシユランドパークの今後について

高子 秀明 本市職員の職場環境整備とメンタルヘルス支援について

村上 由紀 地区公民館職員の待遇改善について